

新クリーンセンターを見てきました

新しいクリーンセンターの竣工式が5月17日に行われました。これまで使われていたクリーンセンターは、1977年（平成9）の竣工以来20年以上が経過し、施設の劣化や塩害などで毎年修理を繰り返してきました。このまま大規模修理を続けることが困難となり新施設の建設にいたりしました。旧施設の東側に建てられた新施設の総工費が37億円と聞いてびっくりしますが、最近の物価や人件費の高騰を考えるとやむを得ない気がします。悪臭が極端に少なくなり、働く環境としても改善した新クリーンセンターを視察しました。

より安全により環境に負荷を少なく 1回に燃やすごみの量を一定にできるようになったことで、炉の温度が安定することや、高温燃焼によりダイオキシン類の発生を抑制します。また排ガスについても急速冷却による再合成の防止や活性炭による吸着除去を行うなどして環境に配慮しているそうです。

個別の受け入れがより安全に 庭木の伐採や草取りなどで枝葉や枯草が出ると、センターに直接持ち込むことがあります。これまでは、作業員の指示に従って車をバックさせておろしてもらいましたが、後ろにごみピットがあるので少し怖い思いをしました。新センターではこんな心配はなく、指定の場所に置けば、作業員が扉の向こうに入れてくれます。

分別進む 梱包材の発泡スチロールや食品を包んでいるトレイ（白色に限る）は、これまで液体の薬品に溶かして減量化し、島外に送っていました。ここでは、トレイを減容器で溶かして乾燥させて固め、「インゴット」という重さ8kgの棒状の塊にします。この「インゴット」は1本27円で島外の業者に引き取られています。島のごみ分別のなかでアルミ缶と並んで、売って収入になる数少ない有価物です。ちなみに、これまで有価物だったダンボールや雑誌・新聞なども、今は町が手数料を支払うことで島外に搬出されています。「燃やせるごみと一緒にすればいい」という考え方もありますが、それでは分別するという意識が薄れていくので、やはり分別は続けるべきだと思います。

一般ごみから金属が 収集車によってセンターに運ばれる一般家庭や事業系のごみの中に鍋、針金、スプーン、缶などの金属ごみが混入していることがあり、職員を悩ませていました。以前は焼却灰の中から手作業で選別していましたが、ここでは機械で選別が行われ、職員の負担軽減になっています。

施設の延命のために 生活していれば、ごみは必ず出ます。生ごみはコンポストで堆肥化できます。過剰な包装はできる限り避けて、燃やせるごみの中に金物を入れないなど、決まりを守りながら分別をきちんとすれば、ごみの量が減り焼却炉の安定化につながります。私たちのごみに対する意識の向上、日々の姿勢が大切なのだと思いました。



今年行われた各地の町村議会議員の選挙では、いくつかの自治体で定員割れがありました。無投票や定員割れの状況が増え、議員のなり手不足は全国的にも深刻です。

5月10日に、長野県北部の飯綱町（人口約1万人）の元議長を講師に迎えて開催された、東京都町村会主催の町村議会議員の講演会「議員のなり手不足対策と議会改革の推進」はそうした状況を打破するヒントを与えてくれた内容でした。

講演会 議員のなり手不足対策と議会改革の推進

講師 長野県飯綱町議会・元議長 寺島 渉氏

町村議会の本質 住民の多様性を反映した合議体であることが議会の存在意義であると考え、定数削減と議員報酬の引き上げは別々に考えるべきとの指摘がありました。

なり手不足の解決には 議会が取り組むべき課題は住民との交流であること、町の課題としては、議会事務局の体制強化、女性議員を増やすために議会だよりモニターに女性参加を募るなどがあげられていました。

議会改革 議会力や議員力の向上のための対策として、まずは議員どうしの学び合いと自由討議を進めることを提案していました。具体的には、飯綱町議会の10年にわたる議会改革の実践の中からいくつかの例が紹介されました。

- ① 追認機関から脱し、議会の権限と役割、責任を果たす・・・
一般質問に一問一答方式を導入し、町長に反問権を認めること。
一般質問で町長が検討を約束した課題について、半年ごとに検討結果を議会に報告すること。
- ② 「チーム議会」の政策提言活動を重視、「政策サポーター制度」の新設・・・
議員の定数が減るなかで、町民の知恵を借りて政策づくりを協働ですすめた。政策サポーターには1回4,000円支給し、延べ71人の住民参加により町長に10の政策提言を行った。
- ③ 開かれた議会、議会への住民参加を広げ、「議会の見える化」を・・・
模擬議会や休日・夜間議会の開催、町民との懇談会（毎年数回）、議会白書の発行などを実行した。

八丈町議会ができることは 講演者が属していた飯綱町議会は議員定数15人のうち女性議員は3人でした。八丈町の女性議員については、島しょで最大の割合をずっと維持しています。

このほか、議員定数の削減、住民との懇談会、その数年前には一般質問のYouTubeによる動画の配信を実現してきました。今後は、議員同士の自由な議論、議会事務局との連携などをさらに進めていきたいと思えます。

住民に寄り添った議会にむけて努力する力をもらった意義深い講演会でした。八丈町議会からは全員が参加しました。





2024年3月議会 一般質問



1. 町職員の労働環境の改善について

昨年度は、多くの町職員が退職した。そのことも大きな問題だが、その後抜本的な改善策がとられていないので、今後の行政運営が心配になる。

問 今、町職員は何人で、何人不足しているか。確保の見込みはあるか。

総務課長 庁内の事務職員は115人で12人の不足がある。経験者や年長者（59歳）を採用するなど柔軟に対応した結果、確保に近づいている。

問 12月議会で企財課長が提案した「地方創生本部会議」は何回もたれたか。

「役場内部の職員間の意見を集約できる態勢づくり」の具体策は。

答 地方創生本部会議（地創）は昨秋より5回開かれ、うち4回はサステナ事業の予算事業内容について協議している（特別職と管理職）。職員間の意見集約については、係長級を中心に「地創プロジェクトチーム」を立ち上げた。

問 職場環境をよくするための待遇改善策はあるか。

答 業務負担を減らし、働きがいを実感できるよう整備したい。今年度はハラスメント研修を実施した。今後はアンケートによる意見集約から取り組む。

町長 コロナ禍でイベントがなくなり職員間の交流も減った。担当職員、係長の声を吸い上げる体制がなかったので、今後はつくっていききたい。

再質問 職員の得意分野を把握し、その意に即した職場に配置することができているか。専門的能力を伸ばしスペシャリストを育てる考えはないか。

副町長 資格や異動希望を考慮しているが、人員不足で希望どおりにはいかない。事務分担から始めるが機構改革も考える。複線型人事もメリット・デメリットがある。技師採用も育てたあと退職するケースもあり難しい面がある。

問 職員が職務で上京した時の滞在時間の緩和策と宿泊費の増額についてはどう考えるか。

答 出張時の前乗りと後乗りの緩和策については運用ですでに改善できているので変更する考えはない。現在11,000円の宿泊費については、物価上昇や地方出張などを考慮し増額を検討したい。



写真提供:八丈町

2. 民間クリニックの継続を

1月に突然岩淵クリニックが閉院になった。医師の死去によるものでやむを得ないことではあるが、閉院の影響は大きく、住民に困惑と心配をもたらしている。八丈病院の人的負担と患者の時間的精神的負担は大きいと同時に、民間のクリニックの継続を望む声は日に日に高まっている。町として、住民の要望にどのように応えたいと考えているか。

問 民間の診療所とどのような連携をとっていたか。

病院事務長 在宅からの入院と在宅医療（訪問・看護）を希望の方、介護度の高い方などの紹介を行っており地域医療の連携はできていた。

問 民間クリニックの継続の実現に何らかの支援ができると考えているか。

答 継承の希望がある医療機関と情報交換を行っており、連携は続けていく。



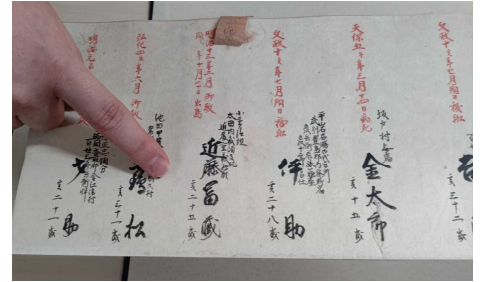
●●● 島しょの議員とともに視察しました ●●●

三宅会の研修旅行

三宅都議を支援し、島しょの議員同士が交流をはかる三宅会恒例の研修旅行が5月11日、12日に行われました。前日の議員講演会に続く日程だったので、47人とこれまでになく多くの議員が参加しました（八丈からは10人）。島と島との情報交換だけでなく、議員間の親交を深めることにも役立ちました。

東京都公文書館

4年前に国分寺市に移設新築された、木の香りが漂う美しい建物でした。各島の議員はそれぞれの島の古地図や文献に興味津々。3班に分かれて職員の説明を受けました。書庫では、大切に保管されている『八丈実記』や『流人帳』の本物を見せてもらい、八丈の議員はみな感動し、本物の持つ力を実感しました。



翌日は静岡県の地震防災センターへ



家具や家電の転倒防止グッズ

ここでも、職員のガイドから具体的でわかりやすい説明を受けました。展示や映像にも工夫がこらされていました。震度6と7の体験コーナーでは、震度6ではなんとか耐えられましたが、7では手すりがないと立てられないほどの大きな揺れに恐怖を感じ、これまでに全国で被災された方々の気持ちが少し分かったような気がします。町が毎年10月に行っている防災訓練も、多くの議員から指摘されているように、実際に役に立つような訓練に変えていかなくてはという思いを強くしました。

■ 経済企業協議会 4月10日

旧末吉小学校の利活用に関する調査について

私は旧末小に浴室機能をもたせることにこだわっていましたが、できる可能性とできない理由を整理したくて、提案しました。まず、4月8日に島しょ保健所で旅館業一般の開業する際の条件などについて説明を受け、次に利活用の現状を企画財政課長に説明してもらいました。これをベースに6月議会の一般質問を行うつもりでした（結果は次号に掲載）。

参加議員 浅沼清隆、岩崎由美、山下巧、奥山幸子、金川孝幸、山本忠志

■ 総務文教協議会 4月16日

八丈町の介護現場における介護保険制度の影響について

まず、介護保険の現状を知るために、議員同士で勉強し課題を見つけ、今は現場で働いている人の声を聞く必要があるので、事業者への呼びかけを実施しているとのことでした。

参加議員 浅沼隆章、真田幸久、沖山昇、山下則子、浅沼碧海

編集後記



3月議会の報告が7月になってしまいました。早く皆様のもとに議会報告をしなければと思いつつ、今回も遅れました。ただ、議員としての活動が滞っているわけではなく、活動は続けています。世の中も議会も変化が求められています。町の議会もみなやる気満々です。

